

目指すべき中学校のあり方について－中間まとめに向けて－（案）

豊山中学校施設整備基本構想会議は令和 3 年 6 月からこれまでに 4 回開催し、この間、委員からの専門的知見に基づく議論を重ね、また、生徒や保護者等からの意見聴取を行ってきた。この資料は、学習環境の質的向上など検討協議課題の 5 項目に関して、これまでの検討成果に教育委員会の考え方を加えた内容となっている。今後さらに町民アンケート、関係データなどを盛り込み中間まとめとしていきたい。

1. 教育環境の質的向上

教育環境の質的向上は、生徒の学力向上、豊かな人間性の構築に不可欠である。また、教職員の執務環境を改善することにより、効率的で効果的な教育の実現を図ることができる。

○多様な学習形態への対応

- ・新しい時代の学びの姿に対応するためには、教室間の間仕切りの仕様の検討や、様々な用途に利用できる多目的室の設置など、フレキシブルに利用できる学校施設が望まれている。また、GIGA スクール構想に基づき配布したタブレットを、生徒の学習に有効利用できるよう通信環境の整備や各教室へのモニター設置などが望まれている。
- ・教室は多様な学習形態に対応する机、ロッカーなどの配置が可能な面積、形状等となるように計画することが求められている。
- ・学校施設に設置される各運動施設についても、様々な利用方法に対応できる機能が求められている。グラウンドは現状以上の面積を基本とし、体育館、武道場、プールについては財政負担や地域連携と合わせて検討を行う。

○特色ある教育環境

- ・豊山町内にある生涯学習施設(社会教育センターなど)や他の公共施設等との連携が望まれている。また、町内唯一の中学校として、地域との連携も求められている。

○生徒数に対応した空間の確保

- ・豊山中学校施設改築・長寿命化計画によると豊山中学校の生徒数は微増傾向にあり、2040 年の 525 人をピークにその後は微減していくと推測される。新たな豊山中学校では、ピーク時の生徒数に対しても十分に対応できる施設を計画していく必要がある。そのため、普通教室に加え、フレキシブルに利用できる余裕教室の確保や、ゆとりのある空間を計画する必要がある。また、普通教室及び机のサイズについては多様な学習形態を考慮した広さの計画が望まれている。
- ・障がいを持つ生徒に対しても、様々な障がいに対応した環境の整備が求められている。また、普通教室と特別支援教室の配置についても、連携などに留意した計画が求められている。

○働きやすい執務環境

- ・生徒や施設の管理、教職員の業務効率向上を図る上でも、教職員が主に利用する職員室をはじめ、保健室や印刷室など管理諸室をまとめて整備することが望まれている。また、各々の執務空間もゆとりをもたせ、将来的な教職員の増加にも対応できる整備が望まれている。
- ・会議室や準備室、学年室(教職員用)の充実も求められており、多様化する教育環境に対応できる執務空間の整備が必要であると考えられる。
- ・職員室は多くの関係者や生徒が訪れる場所であることから、入口に受付や相談スペースを設置するなど、訪問しやすい環境とすることも望まれている。
- ・屋外空間の改善として、教職員用の駐車場を十分な台数確保することや転回スペースの確保なども求められている。

計画においての基本項目

- ・1 学年 180 人前後を想定しつつ、各学年 6 クラス編成が可能な配置とする。
- ・生徒がゆったりと落ち着いて学べるよう、各教室は現状(約 63 m²)以上の面積を確保する。
- ・同一学年は同一階に配置できるように余裕教室も考慮した計画とする。
- ・1 クラスの生徒数は 35 人を基準に計画する。
- ・現行の 普通教室と特別教室を基本とした計画とする。
- ・普通教室の 机サイズはタブレット、教科書、ノートが広げられる大きさを基準とする。
- ・特別教室＋準備室を充実させ、様々な教育ができるよう整備する。
- ・タブレットの有効利用が図れる教室環境を計画する。
- ・廊下、階段等は幅を広くするなどにより、生徒の学習の場としての機能を確保する。
- ・現状以上の面積を基本としたグラウンドを計画する。
- ・障がいの種別に 柔軟に対応できる教室を計画する。
- ・余裕教室は、今後の教育環境の変化を見込み 多目的利用や少人数学習にも対応できるよう整備する。
- ・教職員が生徒の教育に集中できるよう、充実した職員室を整備する。
- ・休憩室やシャワーの設置など、教職員の労働環境の質的向上を図る。
- ・教職員用駐車場の 十分な台数確保、ゆとりある駐車スペースを確保する。

更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・情報教育の推進と施設整備の在り方について整備計画を検討する。
- ・食育については給食センターと連携して情報発信を図ることを検討する。
- ・校訓の「創造・責任・健康」が新たな豊山中学校でも実現できる施設を検討する。
- ・体育館、武道場、プールは財政負担や地域連携と合わせて検討する。

更なる検討項目(基本設計段階)

- ・フレキシブルに利用できるように 廊下側の開放などを検討する。
- ・教室内の ロッカーは使い勝手が良いようにできる限り大きくできるよう検討する。
- ・職員室の入口に、受付や相談スペースなどを設置することを検討する。

2. 快適な学習生活空間・環境への配慮

生徒にとって日々の学習・生活の場所となる学校施設は、生徒の学習意欲を向上させるためにも、快適な環境づくりが必要であると考えられる。また、トイレなどの汚れたイメージのある空間は明るく清潔に保ち、学習面だけではなく、生徒の精神面でも安心して利用できる計画とする。

環境面では、地球環境に配慮しつつ生徒への環境教育教材としても利用できる学校施設づくりを目指す。

○快適な学習生活空間

- ・普通教室、特別教室など主要な教室は現状と同様に空調設備を導入し、一年を通して快適な学習空間を維持する。中間期は窓を開放し、自然換気や自然通風が行えるよう計画を進め、学習環境で特に重要な採光は、普通教室を南向きとして計画する。
- ・トイレでは、生徒数に対して十分な数の便器数の確保はもとより、明るく清潔なトイレへの要望がある。また、教職員からは生徒の指導上トイレは管理がしやすい位置への設置要望がある。
- ・学習施設の機能向上の一方で、生徒間や、生徒と教職員の交流の場所も望まれている。特に生徒間の交流場所は良好な人間関係の構築が図られることから、近年建設されている中学校施設では標準的に設置されていることが多くなっている。生徒と教職員の交流面では、授業内容や学校生活などが気軽に相談できる空間として設置が望まれている。

○環境への配慮

- ・自然エネルギーの有効活用や省エネ対策など文部科学省で推進しているエコスクール事業の内容は一般化されてきており、生徒に対しての環境教育の面でも有効に活用されている。新たな豊山中学校では、一般的な環境配慮項目の採用や木質化、木造化なども併せて検討する。

○だれもが使いやすい学校

- ・国の目標として、令和7年度までに公立中学校施設での車いす使用者トイレ、スロープ等の段差解消、エレベーターの設置が掲げられており、学校を利用する全ての人に対して、やさしい学校施設となるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化への対応が求められていることから、標準的な内容の採用に加え、LGBT 対応トイレの設置や複数言語のサインなど、更なる機能向上を図る。

計画においての基本項目

- ・普通教室、特別教室には空調設備を設置する。
- ・各室は自然採光、自然換気により明るく過ごし易い環境にする。
- ・普通教室は南向きとし、教室内で十分な自然光が取り入れられる計画とする。
- ・トイレ器具は洋式を基本とし、生徒数に対して十分な数の器具を設置する。
- ・トイレ内の床は乾式とし、清掃しやすく衛生的な施設を計画する。
- ・トイレは、広く明るい空間を計画する。
- ・多様性に配慮したトイレの設置を行う。
- ・バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を徹底する。

更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・ロビーにベンチを設置するなど、生徒間や生徒と教職員の交流場所の整備を検討する。
- ・エコスクールや ZEB 化など環境に配慮した学校施設整備を行い、環境教育の教材としても利用できる学校に向けた検討を行う。
- ・校舎の構造について RC 造、S 造の他、木造も検討する。

更なる検討項目(基本設計段階)

- ・和式トイレの設置を検討する。
- ・学校のデザイン案に生徒の意見も取り入れるための生徒向けのワークショップ等の開催を検討する。

エコスクール…環境負荷の低減や自然との共生を考慮した学校施設
ZEB…エコスクールの取組みをより進めたゼロエネルギー化した学校施設



・断熱性能を高め、大人数での多様な活動時にも快適に利用できる大空間のイメージ



・室内木質化や自然採光により、温かみと優しい雰囲気のある共用空間のイメージ

3. 地域コミュニティの拠点形成

学校施設は、生徒の学びの場だけではなく、地域のコミュニティの拠点としても位置づけられ、日頃から学校開放などで多くの町民に利用されている。新しい中学校でも、これまでと同様に学校を開放し、町民が様々な活動で利用できるよう整備を行う。

○中学校と地域の連携・協働

- ・地域開放施設は利用者へのヒアリングや構想会議から、現在豊山中学校で学校開放を行っている運動施設の他にも、町民が利用できる地域活動室やボランティアルームなどの設置が求められている。コミュニティスクール化を実施していくためには、町民が学校へ積極的に参画できる環境が重要なことから、町民利用施設は今後継続して検討を行う必要がある。一方でセキュリティの観点から、町民が自由に使用できる空間の分けは明確に行うことが必要となる。出入口も生徒や教職員との交錯を避けるため専用出入口を設けたほうが良いとの要望も多い。
- ・学校への参加促進、利用者への配慮として、来訪者が利用しやすい駐車場の整備が求められている。
- ・一般的な地域開放では教職員に対する負担も考慮し、地域が協力してくれる学校づくりとして、地域と学校の話合いの場を設けるなど、学校施設の地域開放には学校運営のソフト面の考え方も重要である。
- ・地域の特性を活かした教育として、地元の産業や歴史について学べる機会の創出が期待されており、そのような観点からも地域開放施設の整備を検討する必要がある。

○地域開放、地域施設との複合

- ・生涯学習の観点から、運動施設としてのグラウンドや体育館・武道場などを町民が利用できる施設として開放することが求められている。また、図書室などの開放も期待されている。
- ・町内には社会教育センター等の生涯学習施設があり、体育館や図書室などが整備されている。他の公共施設等との複合化の面から、新たな豊山中学校への体育館や図書室などのあり方を検討する必要がある。

計画においての基本項目

- ・地域開放部分と学校利用部分はセキュリティ区分を明確に計画する。
- ・地域利用者専用の出入口を設け、生徒・教職員との動線交差に配慮する。
- ・十分な数の駐車場を整備し、地域開放や学校行事等で町民が訪問した際に利用できるよう計画する。
- ・グラウンド、体育館等は地域開放ができるよう町民の利用も考慮した配置計画を行う。

更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・町民が自由に利用できる地域活動室を設置するか検討する。
- ・地域のボランティアが利用するボランティアルームの設置を検討する。
- ・学校内に町民が利用できるコミュニティ広場など、学校と地域の交流空間設置を検討する。
- ・町の生涯学習施設機能の一部としてコミュニティスクール化を今後検討し、セキュリティ面では地域の協力が得られるか検討する。
- ・地元の産業や歴史について学べる機会を創出するための施設整備を検討する。
- ・記念碑や記念樹木のあり方について検討する。
- ・地域開放にて利用する各団体の器具保管スペースを確保できるか検討する。
- ・体育館や図書室など他の公共施設等との複合化による効果について今後継続検討する。



- ・地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間のイメージ



- ・他の公共施設との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間のイメージ

4. 安全安心な施設環境の確保

大規模な災害が発生した際に、学校施設が安全に継続して利用ができるように、また、町の指定緊急避難所として万全の災害対策が取られた計画が必要となる。新たな豊山中学校では、災害時だけではなく、日々の生活の中でも、生徒が安心して過ごすことができる学校となるよう計画を立てる。

○災害に対応した学校

- ・災害の中でも特に人命に影響する地震への対応として、耐震構造による学校施設の計画が要望されている。学校施設は、避難所として利用されることから、中学校の改築に当たっては、文部科学省が定める耐震基準を遵守した上で更なる安全対策を講じる必要がある。
- ・災害発生時の避難所の多くは体育館が利用されているが、更衣室やシャワー、トイレなどの設置の要望がある。また、災害時であっても空調設備の利用や障がい者が不便なく利用できる施設も求められている。
- ・災害発生後に通常授業を再開するためには、避難所として利用される部分と学校として利用する部分のゾーニングを検討する必要がある。

○日常の安全性確保

- ・学校内への不審者侵入防止対策として、校門を職員室から視認しやすい位置に設置、学校周囲のフェンスを乗り越えられない高さとするなど、教職員や保護者から特に強い要望がある。一方、地域とのつながりを重視するには開放性も必要となるため、運営面での対応方法を含め検討が必要となる。
- ・感染症対策として、十分な手洗い場の設置が求められている。
- ・敷地内への緊急車両進入の場合を想定し、消防車等が通れる門の広さや周辺道路からの進入のしやすさ等が求められている。

計画においての基本項目

- ・校舎は耐震構造を基本とし、重要度係数は文部科学省の構造設計指針に則り 1.25 以上とする。
- ・避難所として必要な機能、施設について、防災担当部局と連携しながら計画する。
- ・窓をはじめとする開口部からの侵入防止、地域開放に伴う利用者の増加に対して適切な安全性が確保できるよう計画する。
- ・生徒、教職員及び学校施設利用者のプライバシーに最大限配慮しつつ、不審者侵入の防止を図るため、防犯カメラを適所に設置する。
- ・感染症対策として有効である手洗い場を適所に設置する。
- ・保健室と職員室を近接させるなど、生徒の安全管理に目が届きやすい環境を整備する。
- ・緊急車両が通れる門の広さ、周辺道路からの進入のしやすさに配慮する。

重要度係数…建物の重要度に応じて必要保有水平体力を割り増す係数

更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・避難所となる体育館に災害時も利用できる空調設備(大人数利用も考慮)の設置を検討する。
- ・災害発生時の拠点として、避難者が安全・安心に利用できるよう災害備蓄倉庫や設備の設置を検討する。
- ・災害発生後でも早期に授業開始が可能となるよう適切なゾーニングを検討する。

5. 財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営

新たな豊山中学校建設は、建設費用、将来的な維持管理費用ともに町の財政への負担が大きな事業となる。適切な事業手法の選定や効率的な施設整備・運営がなされないと、当初見込んでいた費用から更に増額し、財政状況の悪化につながる可能性が考えられる。そのため、事業手法及び施設整備・運営を最適化した上で事業を進めていく必要がある。

○計画的な整備、敷地利用の効率化

- ・ゆとりのある学校の整備は教育環境、学習環境として非常に優れている。一方でゆとりをもたせることで学校全体の床面積が増加する傾向にあり、床面積が増えると建設時の工事費も増加する。生徒・教職員へのヒアリングにより、要望として挙げられた教室の確保は前提としつつ、共用化が図られる教室の配置など効率的に学校が機能できるよう計画する必要がある。
- ・改築期間中の学習環境、学校生活について、生徒や保護者から心配の声があることから、生徒の負担を極力減らす配慮が必要である。
- ・改築工事を行っている際の安全性についても教職員、保護者から要望がある。改築工事に当たっては、町民及び生徒に対して工事中に大型車両が通る際の安全確保が十分になされるか、校庭の利用ができるか等の検証が必要である。
- ・新たな豊山中学校の建設場所については、工事期間中の学習環境、学校生活への影響のほか、町の財政に与える影響が大きな課題となる。現地建替えの場合は仮設校舎の費用、新規の土地取得では買収費用など多額の費用を要することとなる。今後、財政負担の視点からも建設場所について具体的な数値に基づき検討する必要がある。

○維持管理に配慮した施設計画

- ・長寿命化計画では学校施設の想定耐用年数を 80 年と定めている。建築物は定期的なメンテナンスが必要なため、適切な時期に適切な改修を行うことができるよう、中長期の修繕計画を立案し、将来の修繕費用を把握するとともに、町の財政への影響が最小限となるよう計画を行う。
- ・学校施設の維持管理にかかる費用は、建設費用を 1 とした場合、維持管理にかかる費用はおおよそ 1.8 となる。そのため、新たな豊山中学校建設では、維持管理費全体の縮減が図れるよう、メンテナンス性に優れた建材の使用や、効率的な配置となる平面計画などを行う。
- ・ICT 教育に対応する機器は、設置型を採用すると将来の機器更新の際に利用ができなくなる可能性があることから、普通教室や職員室などはゆとりをもたせ、将来の更新に対応できる計画を行う。

計画においての基本項目

- ・余裕教室を考慮した計画とし、効率的で将来の改修も考慮した学校施設計画を行う。
- ・中長期修繕計画を作成し、改築時より将来発生する維持管理費用を想定する。
- ・維持管理費削減が図れるメンテナンス性に優れた建材を利用する。
- ・機器更新の際に大規模な改修が発生しないよう、ゆとりをもたせた教室を計画する。

更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・効率的な平面計画・配置計画を行い、適正な規模、工事費となるよう検討する。
- ・新たな豊山中学校建設地については、工事期間中の学習環境や財政負担の視点から検討する。
- ・町の財政状況を踏まえた最適な事業手法を選定する。
- ・体育館、武道場、プールのあり方については、町の財政負担にも考慮した計画を検討する。

更なる検討項目(基本設計段階)

- ・改築工事中の騒音、粉塵、車両通行など町民が安全・安心に生活できる環境への配慮を検討する。